

| | | | | | |
|---------|--|---------------|--|--|--|
| 授業科目名 | 旅行者心理学 | 担当教員 直井 岳人 | | | |
| 必修の区分 | 選択 | | | | |
| 単位数 | 2 単位 | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | | | | |
| 開講年次 | 3 年 第 3 クオーター | | | | |
| 講義内容 | 観光旅行者心理の観点から、観光旅行者行動が生起する仕組みを理論的に学ぶ。講義では、テーマを旅行前・中・後に段階を分け、旅行前については観光旅行者の動機・観光イメージ、旅行中については環境と人間の相互関係・環境配慮行動・観光と住民の関係、旅行後については再訪意向について学ぶ。特に、観光地と観光者を別個にのみ扱うのではなく、観光旅行者動機（プッシュ）と観光地特性の知覚（プル）の枠組みに基づき、観光旅行者心理の視点から見た彼らと観光目的地環境の相互関係に焦点を当てるのが本講義の特徴である。 | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・観光旅行者の動機を類型化し、測定できる ・観光地イメージを類型化し、測定できる ・観光旅行者心理に影響を与える観光地環境要因を類型化し、その影響を測定できる ・観光旅行者の行動意向（再訪、環境配慮行動）を促進する要因を説明できる ・「観光による観光地への好悪影響に対する態度」と、「住民の観光を支持する行動意向」および「観光旅行者の観光旅行への態度・観光動機」との関係を説明できる | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：観光心理学の学術的位置づけ 2. 観光者の動機：プッシュ動機とプル動機 3. 観光者の動機：非日常性 4. 観光地評価／イメージ：観光地イメージの構成要素 5. 観光地評価／イメージ：観光地イメージの形成 6. 観光における人間と環境の関係：人間－環境系研究 7. 観光地再訪意向：観光地ロイヤルティの形成 8. 観光地再訪意向：観光地ロイヤルティの形成 9. 社会的に望ましい行動：観光者の環境配慮行動意向 10. 社会的に望ましい行動：観光者の環境配慮行動意向 11. 社会的に望ましい観光：観光と住民の関係 12. まとめ | | | | |
| 事前・事後学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・予習に関しては、事前に配布する講義資料をもとに、次の授業のキーワードの意味を理解しておくこと。 ・復習に関しては、主要概念に関する理解度を問う小課題を出題するので、 | | | | |

| | |
|----------------|--|
| | 回答すること（提出方法は別途指示）。 |
| テキスト | 特に指定しない。 |
| 参考文献 | <ul style="list-style-type: none"> ・佐々木土師二（2007）観光旅行の心理学 北大路書房 ・橋本俊哉（編著）観光行動論 原書房 ・日本建築学会（編）よりよい環境創造の為の環境心理調査手法入門 技法堂 <p>出版</p> |
| 成績評価の基準 | <p>定期試験（90%）、小クイズへの回答（10%）を基に評価する。定期試験では、講義中に説明した概念とその測定（質問）方法（解析までは踏み込まない）に関する理解について評価する。小課題では主要概念に関する理解について</p> <p>自分で小調査を実施してもらい、その結果を基に評価する。</p> |
| 履修上の注意 履修要件 | 2年次配当の「観光マーケティング分析論」の授業内容の理解が、この科目の授業内容の理解の助けになる可能性があるが、履修していないことで授業内容の理解が妨げられることはない。 |
| 実践的教育 | 該当しない。 |
| 備考欄 | <ul style="list-style-type: none"> ・この科目では対面による講義を行う。 ・履修者が定員を超過した場合、抽選を行う。その際、特段の事情がない限り、第1回目の授業出席者を優先する。 |